

鳥羽市総合教育会議 会議録（要旨）

会議の名称	令和2年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和2年4月27日（月）13：30～14：40
開催場所	鳥羽市役所本庁舎 第3委員会室
議題	1. いじめ問題に係る鳥羽市の状況について 2. 「教育の振興に関する施策の大綱」の改定に向けて 3. 鳥羽市の子どもたちの状況について 4. その他
会議資料	【資料1-1、1-2】いじめ問題に係る鳥羽市の状況について 【資料2】鳥羽市教育大綱（案） 【資料3】幼稚園・小中学校における新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休校措置について 【資料4-1、4-2】GIGAスクール構想の加速による学びの保障について ※資料1-2は個人情報等に関わる資料のため非掲載
公開・非公開の別	一部非公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員 奥村楠治、亀川聖子、江崎ユミ、中村和久
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市教育委員会] 山本総務課長、岩本学校教育課長、岩井生涯学習課長 [鳥羽市総務課] 中村課長 中村課長補佐

開会・市長あいさつ

1. いじめ問題に係る鳥羽市の状況について

教育委員会学校教育課長より本市の現状について説明。
(意見・質問等なし)

2. 「教育の振興に関する施策の大綱」の改定に向けて

総務課より教育大綱（案）について説明。その後、市長及び教育長より教育大綱（案）の改定について考え方を説明。

○教育委員

基本方針の9番目に「感性を育むアートに親しむ創作機会や環境を創り出します」とあるが、どういった考えのもと方針の一つとしたのか、市長の具体的な考えをお聞かせ願いたい。

○市長

今のコロナの状態をみて思うのだが、地域共生社会（の大切さを行政が周知している）中において、（感染症予防対策として）人の触れ合いを断つような流れ、社会的な繋がりを絶つ流れに矛盾を感じている。物理的な流れを絶たれることは我慢ができて、社会的な流れを絶たれることは一番ピンチではないかと考えている。そういった状況でアートが人と人とを繋げないかなと考えている。今後、まちづくりを進めていくリーダーにはアートのセンスも必要だと書かれている本をよく見かけるようになった。うまく説明できないが、感性というのは社会を形成していくうえでとても大事なファクターであり必要だと思っているので基本方針の一つとした。多様性やグローバル化といったこともアートに繋がると考えており、欠かせないキーワードだと思っている。逆にお尋ねするが委員の方はアートについてどう考えるか。

○教育委員

市長の考えはよく分かる。(今後策定予定の教育ビジョンに) 具体的に盛り込むとなると今は分からない。

○市長

美術館が市内にあるといった多額の費用が必要なアートではなく、目指すのは安価なアートや身近にあるアートに触れる機会を増やすこと。

○教育委員

相差に武蔵野美術大学の学生の方が商工会議所を通じて何日か泊まりに来たが、一番仲良くなっていたのが子ども達だった。感受性が育まれるという意味では、アートはいい機会になるのでは。

○教育長

市長も公務でいろいろな土地に行かれたことがあると思うが、(アートの)印象に残っている所を紹介してもらえると我々や委員の方も市長のイメージを共有しやすいのでは。

○市長

回答から少しずれるかもしれないが、他所を訪問して感銘を受けた時、「此処に連れてきたかったな」というよりは、「此処に住む人達が鳥羽に来てくれたらな」と思っている。この考えがクラフト展の原点である。印象に残った場所に連れていくのではなく、鳥羽で(クラフト展を)してもらうことで制作段階における会場作りなどを通じて市民の方にアートに触れてもらえる。美術館だけがアートではないと思っている。感性のある街には街中にアートがあり、建物や道路や商店の看板にも人を惹きつける何かがある。アートが教育だけでなく、まちづくりに繋がり、福祉にも繋がるととても効果があると思っている。教育長はどう思われるか。

○教育長

(市長のイメージとして)アート設備に溢れた場所もあるが、設備を整えることではなく、人との交流を深める、という意味はよく分かる。確かに鳥羽へのリピーターは多くても子供たちと触れ合う機会は少ない。そういった触れ合いも子供たちの大きな財産となる。

○市長

先ほど話した「物理的な人の分断に耐えられても、社会的な人の分断に耐えられない」という言葉は昨日の日曜美術館(という番組)で言われていた話。番組に出てきたアーティストが瀬戸内海の因島で見てきたことを今年現代美術館で展示する予定だったけど、コロナで開催できない状況となった。その他スポーツも人の繋がり生む種の一つとして行っていないといけないと思っている。今までなら勝敗のみが重視されたが、スポーツは人を繋げるスキルの一つ。人と繋がることでいろいろな価値が生まれる。

○教育委員

幼少のうちからそういったことに触れることは必要だと思う。今でこそ通信や交通が発達していろいろな情報はいってくるが、少し前ならそうはいかなかった。ただ、鳥羽市の場合、文化的なことは遅れていると思っている。

○市長

鳥羽市は文化面が遅れているとよく言われるが、文化と言っても多岐にわたりいろいろな文化があるので、個人的所感として、本当に他所の自治体と比べて遅れているのかな、と疑問に思っている。むしろ人口減少により文化が守り切れなくなっている、という側面もあるのでは。

○教育委員

「自己満足」と表現していいのか分からないが、離島とかいろいろな地域で行われている文化に対し、自由というか、驚く時もある。他者の視線を気にしていないというか、アートであり、文化や考え方もそう。ただ自己肯定も確かに大事。

○市長

各地域の祭りも担い手不足が深刻。

○教育委員

伝統とはニュアンスが違う。残していきたいことと、進化していかないといけないこととは違うと思っている。観光客に祭りに参加してもらうことで祭りを続けていく、といったこともひとつの案。

○市長

とばっこ探偵団はいいことだと思う。後年、その時の経験をきっかけに鳥羽に帰って来てくれるといい。(とばっこ探偵団に対する)外部の評価はどうか。

○教育長

とばっこ探偵団は県内の他市の教育関係者からの評価は良い。

○市長

(鳥羽市が) 観光の街である故にああいった成果に繋がる。観光資源がなければそうはいかない。鳥羽はそういった強みがある。

(鳥羽市教育大綱(案)について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3に基づく次期教育大綱とすることについて、挙手全員により了承を得た。また、大綱のブラッシュアップを今後も教育委員会事務局と協議重ね行うことと、公表の時期については事務局に一任してもらうことについても了承を得た。)

3. 鳥羽市の子ども達の状況について

①幼稚園・小中学校における新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休校措置について

教育長より鳥羽市の状況について説明。

○教育委員

登校日に授業をすることの是非について、個人的にはいいことだと思うが、富山の方で登校日においてクラスターが確認されたと聞いているので判断に迷うところだ。子供たちは今ぎりぎりの状態。親の時間管理がしっかりしていないと、個人的に仕事柄、いろんな家庭の様子を聞くが、正直心配になる家庭もある。コロナが終息したあと不登校になる子供たちが増えるのではないだろうか。話題がそれだが富山の件があるので今ここで意見を言うのは難しい。

○教育委員

登校日に授業ができないかとの提案について、例えば学年別や一つのクラスを二つに分けるなど、いろんな方法があると思うが、それについてどう考えているのか。

○教育長

現時点での認識として(全学年)一斉登校は難しいと考えている。学年で分けるというのは考えないといけないかもしれない。

○教育委員

学校それぞれの生徒数も異なる。登校の方法が学校で分かれるのか。

○教育長

本来ならそうすべきなのかもしれないが、保護者から必ず問い合わせがくる。学校ごとの判断とすると学校長が責任を負う立場になる。そうではなく教育委員会からの一斉休校措置としないと(保護者に)受け入れてもらえないのではないか。資料3では離島校と陸部校とに分けているが、地域で対応を分けることは考えていない。

○教育委員

富山の件がなければ登校日に授業という案に異論はなかったが、感染するリスクがあるならば難しい判断だ。全国で見ると数%とはいえオンラインで授業ができています。市内全校とはいかなくても模索してほしい。(コロナの)終息の兆しがみえないので長期戦になることも想定される。次の議題にもなっているが、鳥羽市の子ども達が少なくなっているのは今は逆に(通信環境を整えることについては)強みなのでは。

○教育長

明日中には校長会で方向性(5月7日以降の臨時休校の継続の有無)を決める予定。その後、市長に報告させてもらう。

②GIGAスクール構想の加速による学びの保障について

教育委員会学校教育課長よりGIGAスクール構想について説明。

○教育長

前回(4/21)の教育委員会、明日の校長会もそうだが、テレビ会議を行うベースになるのは基盤の整備と考えている。スマホでは通信が不安定。Wi-Fiの環境があるところで通信をする必要がある。

3月の補正で予算措置したが、鳥羽市の場合は先ほどの話にもあったが地域の環境にこれを入れる必要

がある。神島などの遠隔地や離島校の場合、定期船がよく欠航となるので先生が登校できないことにより授業が止まってしまう。そのような場合でも（基盤が整備されていることで）陸地にいながら授業ができる。そういう意味でもGIGAスクールの構築を進めていく必要がある。毎年各学校から教材の購入要望があるが、それらの教材費予算を圧縮、または来年度以降に購入時期をずらしてでも、テレビ会議をするためのマイク付きビデオカメラなどの通信設備を早急に措置して各学校に配備する必要がある。テレビ会議にマイク付きビデオカメラは必須だが各学校にはなく、これがないと必要な時にテレビ会議ができない。その他ラインやアプリの研究を通じてできることから進めていきたい。あと将来的な構想だが、今回国の補助事業において約1100人の生徒数（タブレット必要数）に対し2/3が100%補助対象となり約750台が市の負担なく整備できるが、残りの300~400台は市費で購入しないと間に合わない。しかし費用的に市の負担が大きい。そこで例えばだが、今後、小学一年生になったら各家庭でランドセルを買うのと同様、タブレットを購入してもらおうような状況をつくっていく必要がある。できたらその購入費に対し市としてもある程度の購入費補助をするなど、自分専用のタブレットを用意してもらい、それを中学校卒業まで持ち続けてもらう。もし故障したら自己責任で対応してもらうことになるが、そういう時代になっていくのではないだろうか。市が全て購入して教材として貸与するやり方では、取扱い方がどうしてもぞんざいになりがち。また故障した時の対応費用も大きくなる。ただ、そういった方向へ導くにはまだまだ研究していく必要があると考えている。

○教育委員

戦前と戦後で教育が大きく変化したのと同様、今回のコロナを契機にかなり変わるのではないかな。こういった事業は前のめりで進めてほしい。社会も変わり東京一極集中から地方へ人が流れてくる時代が来るかもしれない。そういった人たちを取り込むためにも、まちづくりの観点からも構想を是非進めてほしい。田舎が逆に都会より進んでいるほうがスマートに感じる。そのギャップに（市の）魅力を感じ移住してくれる人もでてくるかもしれない。予算的に厳しいのかもしれないが是非前向きに。

○教育委員

資料4-1の「③緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備」とは何か。個人負担を求めているのか。

○学校教育課長

資料4-2をご覧頂きたいが、年収400万円未満の家庭に対しモバイルルータを貸与することで家庭でのオンライン学習環境の整備を図っていくということである。通信費は各家庭で負担してもらうことになる。市としてどうしていく（市が負担するのか各家庭での自己負担とするのか）は今後決めていく必要がある。

○教育委員

事業を進める前に市として決めておく必要がある。

○教育委員

各家庭での負担となるとばかにならない。教育の話ではなく、市としてWi-Fiスポットを整備することが必要ではないか。観光面でもPRになるのでは。

○教育長

佐田浜や図書館などはその環境にある。今年度各学校のWi-Fi環境を整えるので、先生が登校できなくても、生徒たちが学校にさえ来てくれれば、リモート授業が可能となる。

4. その他

○教育委員会総務課長

今回の会議で次期教育大綱が定まったので、今後、次期教育ビジョンを今年度中に策定していく中で、（教育大綱の）基本方針の具体的取組について議論を深めていく。今年度は次期総合計画も策定されるので、総合計画の策定進捗状況も考慮し、次回の総合教育会議を開催させて頂きたいと考えている。